

新除草・調節剤

カソロン粒剤 6.7

D B N 除草剤

北興化学工業株式会社
(取扱メーカー) クミアイ化学工業株式会社

対象；牧野草地

性状・作用特性；本剤は、2,6-ジクロロベンズニトリルを6.7%含む類白色の細粒である。非ホルモン、吸収移行型の土壌処理剤で、雑草の発生初期処理で非選択的に作用し、1年生のイネ科および広葉雑草を枯殺し、長期間抑制する効力を有する。また、生育した雑草に対する作用は広葉雑草に強く、特に防除困難なヤブガラシ、ギンギン、ヨモギ等の多年生(宿根性)広葉雑草にすぐれた効力を有する。

人畜毒性は普通物で、急性経口毒性 $LD_{50} = 6,810 \text{ mg/kg}$ (マウス), $LD_{50} = 3,160 \text{ mg/kg}$ (ラット) である。

使用方法；1年生雑草に対しては、本剤の所定量を散粒機または手まきにより、全面均一に散布する。多年生広葉雑草に対しては、雑草の株元または生長点に所要量を局部処理する。牧草地のギンギンに対しては、出芽展葉期に散布するのが効果的で、ことに古株に対しては薬量を多めに処理する。使用量は、全面散布の場合は10a当り5kg、局部処理の場合は1株当たり1~2gが適当である。

使用上の注意；全面処理の場合は、雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、雑草の発生初期に処理する。土壌が乾燥しすぎると、効果が落ちる場合があるので、雨上がりなどの土壌水分の多いときに使用するとよい。全面散布の

場合は、散布ムラを生じないように均一に散布する。

M & B 9 0 5 7 除草剤

(取扱メーカー) 塩野義製薬株式会社

対象；牧野草地

性状・作用特性；本剤は、メチル4-アミノベンゼンスルホンカルバメイトを34%(40%W/V)含む水溶剤で、非ホルモン型の吸収移行型除草剤である。本剤は、雑草の発生前から生育期に土壌処理または茎葉処理することによって、1年生イネ科雑草および広葉雑草、多年生の広葉雑草にも極めて強い殺草力をもつことが認められている。特に、従来から牧野草地において防除が困難とされているワラビ、ギンギン類、スイバ類およびキク科の多年生強害草を選択的に枯殺する特性を有する。

本剤の動物に対する毒性は、哺乳類(急性経口毒性マウス $LD_{50} = 1,754.0 \text{ mg/kg}$)だけでなく、魚類(稚ゴイTLM48時間=1,000PPM以上)、鳥類、カイコ等の昆虫にも極めて低いことが認められている。

使用方法；ギンギン類およびキク科雑草対象の場合には、10a当り製品500~600ccを秋から春(9~5月)のギンギン類展葉時に1回または2回全面散する。局部処理および群生地処理の場合には、早春から秋(1~11月)にかけて、随時10a当り製品1,250cc以上を散布して防除することもできる。ワラビを対象とする場合には、維持管理や更新などの目的

新除草・調節剤

に応じて、10a 当り製品500～1,500cc
をワラビ展開期に全面散布する。

使用上の注意；本剤の散布にあたっては、展
着剤を加用し、雑草の茎葉部によくかかるよう
に散布すること。本剤を10a 当り製品750cc

以上使用する場合、牧草の茎葉部が変色するが、
間もなく回復する。なお、本剤は速効型除草剤
ではないので、効果が発現するまでかなりの日
数が必要である。

18 薬剤

植調協会だより

② 利用法確立に関する試験では、5 供試
薬剤中、有望視されたものは3 薬剤であ
った。

第1表 部門別除草剤・生育調節剤試験受託点数一覧表

◎ 第18回役員会要旨

昭和45年5月22日、当協会の
議室において開催し、次の議題に基
いて審議の上、可決された。

1. 昭和44年度事業報告
2. 昭和44年度収支決算報告
3. 昭和44年度剰余金処分
4. 昭和45年度事業計画
5. 昭和45年度収支予算
6. 役員人事

次に、その概要をのべる。

1. 昭和44年度事業報告について
(1) 受託試験関係

前年度に引き続き、農林水産特
別研究費補助金の交付を受け、殺
種子剤の合成改良を名古屋大学農
学部、合成改良剤のスクリーニン
グを植調研究所、利用法確立研究
を滋賀、福岡農試、植調研究所が
分担して試験を実施した。

その結果の概要は、

- ① 新たに合成された化合物は

区 分		委 託 点 数				計
		作-ABC	適 - A	適 - B	適 - C	
昭和四十三年 度冬 作関 係	除 草 剤	4	223	11	20	258
	麦 作	3	22	10	11	46
	ナ タ ネ	1	7	0	0	8
	イ グ サ	0	10	0	9	19
	水稻刈取後	0	71	1	0	72
	芝	0	8	0	0	8
	そ さ い	0	105	0	0	105
	生育調節剤	0	23	0	0	23
	麦 作	0	0	0	0	0
	そ さ い	0	23	0	0	23
小 計		4	246	11	20	281
昭和四十 四年 度 夏 作関 係	除 草 剤	324	1325	143	38	1830
	水 稲	220	651	141	38	1050
	畑作関係	104	228	2	0	334
	そさい関係	0	245	0	0	245
	果樹園関係	0	123	0	0	123
	桑 園関係	0	28	0	0	28
	茶 園関係	0	16	0	0	16
	林地苗圃	0	8	0	0	8
	牧野草地	0	8	0	0	8
	芝 生	0	18	0	0	18
	生育調節剤(材)	13	123	0	0	136
	水 稲	11	33	0	0	44
	畑 作	2	6	0	0	8
	そ さ い	0	28	0	0	28
	茶 園	0	4	0	0	4
	桑 園	0	6	0	0	6
	マ ル チ	0	46	0	0	46
小 計		337	1,448	143	38	1,966
合 計		341	1,694	154	58	2,247